



あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
今年の干支はウシ！今年も年の初めから、一般入り口の正面でウシ科の動物達（剥製）がみなさんをお出迎えします。冬の特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き」も開催中です。
ご来館を心よりお待ちしております。



福岡藩3代藩主黒田光之でござる。先月に続き、冬の特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き」の見どころを紹介じゃ。たくさんの展示を鑑賞して、当時の武士の姿に思いを馳せてみるのも楽しみ方のひとつ。きっと何かを語りかけてくれると思うぞ！！

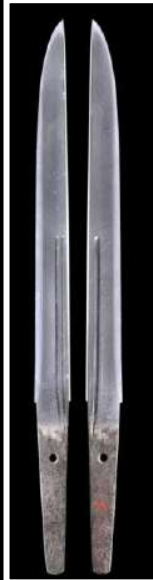
福岡藩



くろだただゆき ぞう
黒田忠之 像
ふくおかしびじゅつかんぞう
(福岡市美術館蔵)



くろうるしぬりなまずおなりかぶと
黒漆塗 鯨尾形兜
うずらまきこいとおどしまるどうぐぞく
鶉巻紺糸威丸胴具足
こくそくつき
小具足付
ふくおかしはくぶつかんぞう
(福岡市博物館蔵)



小倉藩



おがさわらたださね ぞう
小笠原忠真 像
ふくじゅじぞう
(福聚寺蔵)



こいしがしらい よぎねもえぎいとおどし
碁石頭伊予礼萌黄糸威
だんがえまるどうぐぞく
段替丸胴具足
ふくじゅじぞう
(福聚寺蔵)



この像は、私、忠之の像でござる。男前で凛々しい雲田気がよく出ているので、大変満足しておる。そして、私の具足であるこの兜！黒田忠之【鯨の尾】をイメージしておるのじゃ！

しかも、黒漆塗を施しているので、まことに美しい。黒田騷動という御家騷動もあり、大きな苦勞もしたが、そのかいあって強力な「藩」を確立することができたのじゃ。

名刀「博多藤四郎」



これは織田信長・徳川家康の曾孫で、大坂夏の陣の活躍で家康から「鬼孫」と賞された小笠原忠真の像とその所用具足でござります。

たださね ちようじよ
忠真の長女
市松姫

私の父である忠真は小倉藩主となり「九州御自付」として、

西日本の外様大名を監督した譜代大名です。父、忠真は責任をもって、「藩」を確立させたのです。

小笠原忠真、黒田忠之と名刀「博多藤四郎」の関わりなどを会場内で深く学ぶことができるぞ！

具足、屏風図、書状など、盛りだくさんの展示じゃ。お楽しみに！



くろだみつゆき
黒田光之

【学芸員のよもやまばなし】

徳川・黒田・小笠原の絆を深めた短刀「吉光」(博多藤四郎)

本年1月2日(土)に開幕した特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き」に関連する逸話をご紹介します。吉光とは、鎌倉時代中期の京都粟田口派の刀工です。諱(実名)を吉光、通称(仮名)を藤四郎といいました。特に短刀の名手とされ、吉光が作刀したものは天下人や大名たちに珍重されました。

「博多藤四郎」とは人名ではなく、吉光が制作した短刀のうちの一振り(国指定重要文化財)で、福岡藩2代藩主黒田忠之が所持していました。元和8年(1622)1月26日、忠之は2代将軍徳川秀忠の養女を正室に迎えました。この時、将軍秀忠から忠之に国俊の太刀と吉光の脇差が贈られました。この吉光の脇差が、後年、博多藤四郎と呼ばれるようになりました。なお、当時の史料には脇差とありますが、現在では短刀に分類されています。

ただ、なぜ「博多」なのかははっきりしません。持ち主の居城・領地・入手場所といった地名が冠されることはあるのですが、筑前でも福岡でもなく博多が冠されています。それは、備前国(現岡山県南東部)の「福岡一文字」派の刀工が著名であったためかもしれません。

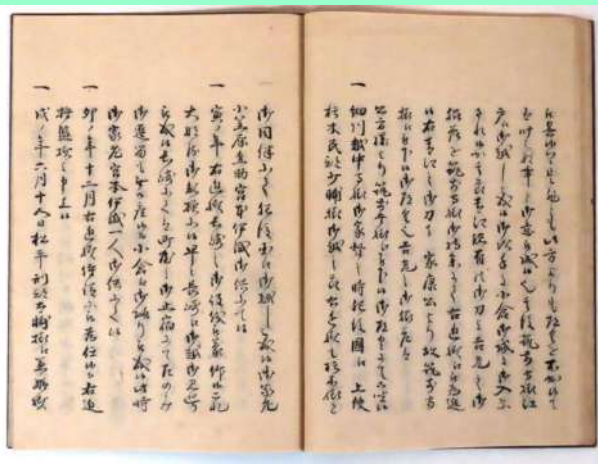
正保4年(1647)12月21日、江戸で忠之の長男黒田光之(のち福岡藩3代藩主)と小倉藩主小笠原忠真の長女市松姫(宝光院)の婚礼が執り行われました。この時、忠之は福岡にいたため、婚礼には出席していません。

婚礼の後、忠真が光之を訪問する「御舅入り」が行われました。その翌日、忠真は婚儀を司った重臣の本多孫左衛門に次のように言いました。「蜂須賀家・本多家との祝言では婿からも舅に道具が贈られた。今回、右衛門佐(婿である光之)殿から私に道具が贈られないのは、私を軽んじているからか。どういうことだ」と。それに対し孫左衛門は、黒田家から聞いていたことをそのまま忠真に伝えました。「今回の御祝言は、酒井讃岐守(忠勝、幕府大老)様が万事黒田家に指南をし、黒田家はその通りにしました。讃岐守様は、『婿から舅に道具を贈ることはこれまで聞いたことがない。無用である』と言われたそうです。そのため、右衛門佐様からは御道具が贈られませんでした」と孫左衛門が言うと、忠真の機嫌は直り、笑って「三河風は田舎なる事」と言ったそうです。

徳川家譜代の酒井家だけでなく、徳川家康の出身地でもある三河国(現愛知県東部)の風習・習慣を、忠真は「田舎なる事」と言っています。ちなみに、忠真にとって家康は母方の曾祖父に当たります。

ただ、光之の父忠之としては、忠真から結構な道具類を多く贈られていたので、その返礼をしななければならないと考えていました。後日、おそらく婚儀の翌年の10月末から11月初め、忠之は江戸に参勤する途上、小倉に立ち寄り、「青江銘有の御刀と吉光之御脇差」を持参し、忠真に贈りました。

この「吉光之御脇差」が博多藤四郎と呼ばれる短刀です。徳川秀忠が黒田忠之に贈り、それから忠之が小笠原忠真に贈った短刀「博多藤四郎」は徳川將軍家・福岡藩黒田家・小倉藩小笠原家の絆を深めた名刀でした。



写真左: 国指定重要文化財 短刀 銘 吉光 (博多藤四郎) (文化庁蔵)

写真右: 「吉光之御脇差」(博多藤四郎)について記されている「見聞雑書」(当館蔵)

れきしかがくげいん もりとも たかし
歴史課学芸員 守友 隆